

令和 7 年度佐賀県肝疾患対策委員会 会議概要

日時：令和 8 年 3 月 10 日（火）19 時～20 時

場所：佐賀大学医学部附属病院管理棟 3 階大会議室

（第 23 回肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会と同時開催）

出席者：

<委員>

有尾委員、大江委員、太田委員、佐藤委員、高橋委員、中里委員、平井委員、
前田委員、矢田委員、山口委員、吉岡委員[計 11 人、50 音順]

<事務局>

野田医療統括監 他 4 人

<その他>

肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会関係者等 計 49 人

議題：

- 1 佐賀県肝疾患対策委員会追跡委員会からの報告
- 2 佐賀県健康福祉政策課がん撲滅特別対策室からの報告
- 3 佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センターからの報告
- 4 その他

会議録：

議事（１）佐賀県肝疾患対策委員会追跡委員会からの報告

平井委員：

佐賀県 HCV キャリアの 80 代の数が極端に多い。なぜか。（５P の左上の図）

肝疾患センター：

80 代以上の累計を記載しているため、どうしても多くなってしまう。

議事（２）がん撲滅特別対策室からの報告

山元医師：

非ウイルス性の肝疾患についても助成を行うべきだと感覚的に思っているが、県としては、

今後の助成に対してどのように考えているのか。

県事務局①：

国の制度ではウイルス性肝炎に対する助成になっている。県の助成については、財源として難しいところもあるが、非ウイルス性は生活習慣からくるところが多いと思うので、日々の健康づくりについての啓発が大事だと思っている。どのような対策をしていけばいいのかということについては検討している段階なので、知見があったらご教示いただきたい。

県事務局②：

予防や治療について色々な側面から組み立てをしなければならず、対応していきたいというスタンスは持っている。今の枠組みでするのか、他に何か付け加えて枠組みを作っていくのかは検討していきたい。肝疾患センターにおいても、なにか示していただければと思っている。

平井委員：

できるだけ早く、高橋先生を中心に検討を進めていけばいいと思う。また、精密検査受診勧奨・助成について、パンフレットを置くだけではなく、医師から患者に勧めていきましよう。直接医師から勧めると、患者の利用率が上がると思う。

議事（３）佐賀大学医学部附属病院肝疾患センターからの報告

有尾委員：

現場の感覚から、アルコールを飲む人の発がん率は昔から高く、それを取り除く必要があると思っている。説明資料の中にアルコールの文言が少ない。アルコールの害を周知することに対して、利害関係などアルコールの害を取り上げないことに理由はあるのか。

肝疾患センター：

特に取り上げていない理由はない。広報活動も行っており、「アルコールは害である」という先生方の認識と我々の認識は一致していると思う。

県事務局：

肝疾患センターだけで対策をやっていてもあまり意味がない。肝疾患に興味がある人については、肝疾患センターの予防対策は意味があると思うが、そうではない人に対しては循環器科など、色々な医療機関で全体的にしていかなければならない。普通の肥満対策ではいけないのか、ということと言う人もいるかもしれないが、県民が実際に行動変容をしていかなければいけないので、肝疾患センターとその他の医療機関とで協力して行っていかなければならない。また、利害関係があるわけではない。

肝疾患センター：

対策がしづらいということではない。実際に肝疾患センターでも減酒・断酒対策を過去にも行ってきた。ただ、アルコールでの肝疾患の受診はかなり少なく、受診があったときにはもうかなり進んでいることが多い。過去に、精神科など色々な医療機関と連携を行ってきたが、

それについても再度見直していく必要があると思っている。肥満対策とオーバーラップするところが多いと思うが、領域横断的に、肥満・生活習慣病に対して、当センターと循環器、腎臓、消化管、泌尿器等、各診療科と連携してまとめていきたい。行政に関しても同様で、がん対策と生活習慣病対策をしていく必要がある。

また、今年度、脂肪性肝疾患については薬が通る可能性が高い。ウイルス性肝疾患の受検・受診・受療のフローのように、明確な指標とどう連携して取り組んでいくかというところを作っていきたいので、その際は、ご協力いただければ。

議事（４）その他

なし

以上